2014.Oct

19





仰せつかった者の立場から記させていただきます。 は、当日の審査会の模様について、コーディネーターを の公開審査会が催されました。その結果は、SMFの ホームページにて発表されておりますので、ここで る 7月 13日(日)に埼玉県立近代美術館にて 「旅する小さな家」アート空間デザインコンペ

での最終選考対象となりました。3名ともに同じ案 異なるものを精選され、計了点が午後の公開審査会 をさらに2点精選して頂きました。結果、3名ともに 補を持ち寄り、その中でも特に優れているというもの 作品をじつくりとご覧になられ、それぞれ7点程度候 前審査をして頂きました。会場に展示された201 郎氏(美術家)の審査員各位には、当日の午前中に事 を選ばれなかったという点に、このコンペに提出され た作品の多様さがうがえます 北原立木氏(小説家)、長谷川豪氏(建築家)、平田五

を前方に招き、以降は彼らを巻き込んで審査が進行 うこととし、びっしり埋まった会場から2組の該当者 身が会場にいらしているのならば質疑をしよう、とい 開審査なので、要項にも記していたとおり、制作者自 薦の講評をいただきました。その上で、せっかくの公 員各位に(ときに、選んだものの批評も交えつつ)ご推 午後の審査会では、まずは7点の候補について審査

> しました。異なる観点からの審査ということに加え、 け難く、しかし、順位を決めなければならないという 異なる視点を持った
> 7点の審査ということで、甲乙つ 優秀賞として選出されました。 氏+山本恭代氏の案「2つの場所で起こること」が最 現性を兼ね備え、質疑にも対応いただけた水谷隼人 選ぶことは困難を極め、そもそもの企画趣旨を再度 りました。しかし、この3点から実際に建てる1点を や超過した頃に、なんとか上位3点を選出するに至 使命を果たすべく、白熱した議論の末、予定時間をや 議論しつつ決め手を探る、というセッションが繰り返 し行われました。最終的には、イメージの豊かさと実

また、観客賞として、事前の展示期間に行われた一般 審査員直筆の賞状が贈られてめでたく終幕と相成り 畠晢実行委員長より来場された該当者に、北原立木 が個人的に評価された作品計 5点(各 1~ 2点)が ました。 投票での評価が高かった3点がそれぞれ選出され、建 講評対象の7点のほか、特別賞として、審査員各位

されるかに是非ともご注目ください 今後は、最優秀案がどのように深化・進化して実現

種田元晴(有限会社 種田建築研究所)



「家を聴く・サウンドスケープ・サウンドモ ンタージュ・ワークショップ」 7月19日(土)・20日(日)

今回のワークショップでは、 日常の何気ない音を録音して コンピュータで切り貼りして 「音の写真集」を作りました。 参加時間を自由としたため、 思い思いの時間をかけて音に 向き合っていただくことができ ました。(T.S)



「小さいお家をつくろう」 7月29日(火)・31日(木)・8月2日(土)



7月29日、31日、8月2日の 3日間、入間市博物館アリット と盈進学園東野高等学校で、 小学3年生から高校3年生ま でのべ84名 が、プラスチッ クダンボールを使って、15棟 の小さいお家をつくりました。 (S.Y)

美術の模擬授業「親子でつくろう! びじゅつのじかん」7月26日(土)

さいたま市民活動 サポートセンターにて 「親子でつくろう!び じゅつのじかん」が行 われました。中学校 で行われている美術 の授業を親子で体験 する内容で、「家」に ついて考えた事や願



「住みつくってなに?―名作住宅に寄生 するこころみー」 8月16日(土)

展覧会「戦後日本住宅伝説」 で気に入った名作住宅を選び、 そこに住みつくイメージで自分 の空間を段ボールで作るとい う、親子参加のプログラム。空

間的想像力全開で、それぞれ に個性的な「小屋」が建ちあ がりました。(Y.A)



「多世代交流ワークショップ 9月6日(土)

うらわ美術館の多世代交流ワークショップは、今年で 6年目。「小さな家」をモチーフに、自分やペアの参加 者をイメージさせる色の紙粘土と透明なブラ板を使った ランプシェードをつくりました。(H.T)





連携美術館情報

入間市博物館アリット

アリットフェスタ特別展2014 「大地にねむる入間の歴史」 11/1~12/7

入間市内には、旧石器時代から近世に かけての72遺跡が所在し、これまでに20 の遺跡で発掘調査を行ってきました。これ らの発掘調査の成果から、普段目にするこ とのできない入間市の地中に埋もれた歴 史をご紹介します。

うらわ美術館

「知ってる形/知らな い形+本

新収蔵・未公開作品 を中心に一」 9/20~10/19

うらわ美術館のコレ クションより、アートに おける具象と抽象の 表現や両者の関係な どに焦点を当て、新収 蔵作品および未公開



▲重村三雄『1976年の私』1976(昭和51)年

作品を中心に、また今まで紹介の機 会の少なかった作品を加えて展示

川口市立アートギャラ

「川口の匠vol.4 麗(うるわし)の とき」

10/4~11/16

ものづくりの街・川口に工房を構 え制作・活動している匠たちに着目 する展覧会。今回は自然が育む素材

に寄り添い、長い時間を丹念に刻んで作 品をつくる、根付師・筆師・藍染師・蒔絵師 の4人を紹介します。

川越市立美術館

「第63回川越市美術展」

第1期:洋画、彫塑、工芸 10/1~10/5 第2期:日本画、書、写真 10/8~10/12 川越市を中心とする地域の方々の作品 を展示し、美術思想と創造的表現力、市民 の交流と地域文化の向上に寄与します。

今回は、アトリア「アーティスト・ラボ「つくられる」の実験」をピックアップします。

市民が新しい表現に出会う場を目指すアトリアでは、毎年夏に「体感・参加できるアート」の展覧 会を行ってきました。今回は従来のように体験型の作品を展示するに留まらない、大胆な「実験」を 試みました。それは4名の若手アーティストが鑑賞者に作品を「つくられる」こと。アーティストと鑑 賞者が交互に手を加える絵画作品や、自由に形を変えることができるインスタレーションなどの制 作を通じて、アートの作り手と受け手の双方に新しい発見や価値観の共有が生まれます。「鑑賞者 とアーティストの直接的なやりとりによって何が起こるのか、自分自身がワクワクしている。」とは企 画者の増田さんの言。自身の可能性を広げるチャンスを積極的に求めつつ表現の芯は揺るがな い、強い信念を持つからこそ他者と対話する余地のある4名を起用したそうです。多様な感性が交 わり予測不能に変化していく、アートの豊かさを共有する実験室となりました!